読むと桃園のまちが♥好き♥になる

桃園学区ニュース

上京区社協が発行する、コロナ禍における学区内の動きをお伝えするニュースです。

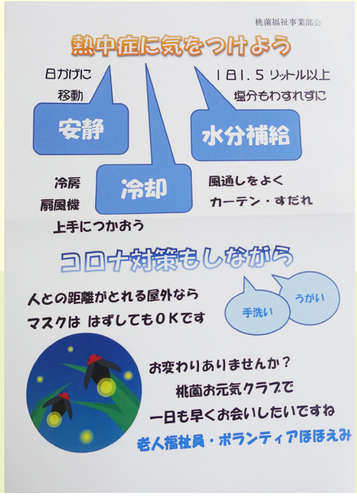
No.1 Sept.2020

コロナ禍の中でも、安心して暮らし続けられるまちづくりが、桃園学区では行われています。

桃園学区では今日も、３密や衛生面に気を配りながらまちづくり活動が行われています。
今回は、６月１３日に桃園自治連合会が行った配食サービスの様子を紹介します。

◎「顔を合わせてしゃべることで、お互いに元気になる」

配食サービスは、毎月第２土曜日に行っています。スタッフのみなさんは午前１０時前に集合し、手指の消毒を行った後、数の確認や仕分けなどの準備を始めました。午前１０時に、各町の担当者の方がお弁当を受け取りに来られ、担当者の方・スタッフの方の間で配食時の留意点を確認しました。



担当者の方に、お話を伺いました。

配食の利用者さんの中には、一人暮らしの方がたくさんいらっしゃいます。一人だとなかなか家から出ないし、人と話さない…コロナ禍だとなおさらですね。
ご飯はどこの店でも買えますが、こうやって顔なじみの人が持っていくことに意味があると思っています。
何よりも、お互いに顔を合わせてしゃべることで、利用者さんも私も元気になります。

訪問先ではお弁当と一緒に、手づくりの「熱中症に気をつけよう」チラシをお渡しして、近況をおたずねします。お元気クラブ（介護予防の取組み）での再会を祈る文言も。

◎「社会がこういう事態になることも想定して、普段のまちづくり活動を積み重ねたい」

スタッフの方に、「コロナ禍の中、感じられたことはありますか？」と質問させていただき、お話を伺いました。

本当は４・５月と見守り活動をしたかったのですが、外出自粛の中でできず、つらかったです。「電話で声掛けができないかな？」という意見も出ましたが、世間では電話による給付金詐欺なども起きていて、はばかられました。

この日はあいにくの雨模様でしたが、担当者の方・スタッフの方は「待ってる人がいるから、休めませんね」と話されました。そうした方々に支えられて、桃園学区のまちづくりが行われています。

その中でも配食活動は続けていましたので、月に一度ですが利用者さんのご様子を伺うことができました。
これからは、社会がこういう事態になることも想定して、普段のまちづくり活動を積み重ねておかないといけないのでしょうね。
私たちが行っているのはささやかなことですが、それで桃園学区内に安心してくれる人がいるのなら、こんなにうれしいことはないですね。

活動の内容は、コロナ禍の状況により変更となる可能性があります。
最新の活動は上京区社協（Tel:432-9535）までお尋ねください。

＼反対側の面も、ぜひご覧ください！／